



釜小だより

2022年 4月 7日
横浜市立釜利谷小学校



4月号

学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariya/>



ともにあゆむ

校長 安達 修久

お子様のご進級、ご入学、誠に おめでとうございます。

3月下旬にはほころび始めた校庭の桜は、4月を待たずに満開となり、春休みの空を彩っていました。寒の戻りのような冷たい雨を経て、今は少しずつ若葉の緑にかわってきました。

令和4年度校長となりました、安達修久です。昨年度副校長として釜利谷小学校に着任し、1年間教育活動に携わってまいりました。その中で前任の菊池校長が示した三つの約束

「しっかりあいさつ」

「いじめはしない、させない、許さない」

「自分から」

を子どもたちが実践できるようにと、教職員とともに努めておりました。本年度もこの約束を引き継ぎ、柱としながら、本校の学校教育目標である『**たのしい わたしの学校**』の実現に取り組んでまいります。

この学校教育目標につきましては、新しい学習指導要領の実施を受けて、令和3年度中に見直しを行いました。

これからの社会を生き抜くために子どもたちに身に付けさせたい資質・能力として、釜利谷中学校ブロックの小中学校では、「コミュニケーション能力」を挙げています。小学校から中学校への9年間を通して、人とのかかわり・つながりをつくる中で、相互に認め合い、高め合えるような「コミュニケーション能力」の育成を目指しています。これらをふまえた学校教育目標とするため、次のような言葉を付け加えることとしました。

『**たのしい わたしの学校**』～うけとめ つたえ ともにあゆむ～

「コミュニケーション」というと相互に意思を伝え合うのはもちろんですが、まず相手の言葉を聞き、気持ちや考えを「うけとめ」ることを第一に、次に自分から「つたえ」ることを大切にしたいと考えました。自分の話は一生懸命するものの、相手のことは話半分となると、認め合うことも高め合うことも実現できなくなります。相手の言うことをしっかり「うけとめ」た上で自分の考えを「つたえ」、折り合う部分を探したりよりよい考えを生み出したりすることができれば、望ましい「コミュニケーション」となるのではないのでしょうか。これは本校で重視している人権尊重の考え方にもつながり、これからの社会を生きていく、「ともにあゆむ」ための大切な資質・能力であると考えました。

社会の移り変わりに合わせて、学習指導要領の改訂が行われ、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力も変わってきました。しかし、釜利谷小学校は明治の昔からこの釜利谷の地に変わらずあり続け、教育活動が行われています。本校で学んだという地域の方々もおられ、大切に思ってください方々からのご協力をいただき、大変ありがたいことです。そのような地域の皆様とも、「ともにあゆむ」学校であり続けたいと願っております。令和4年度も、そしてこれから先も、釜利谷小学校をどうぞよろしく願いいたします。